

学校だより（前期学校評価結果号）

平成28年12月21日
京都市立明德小学校
校長 岡本 雅文
TEL 701-0111

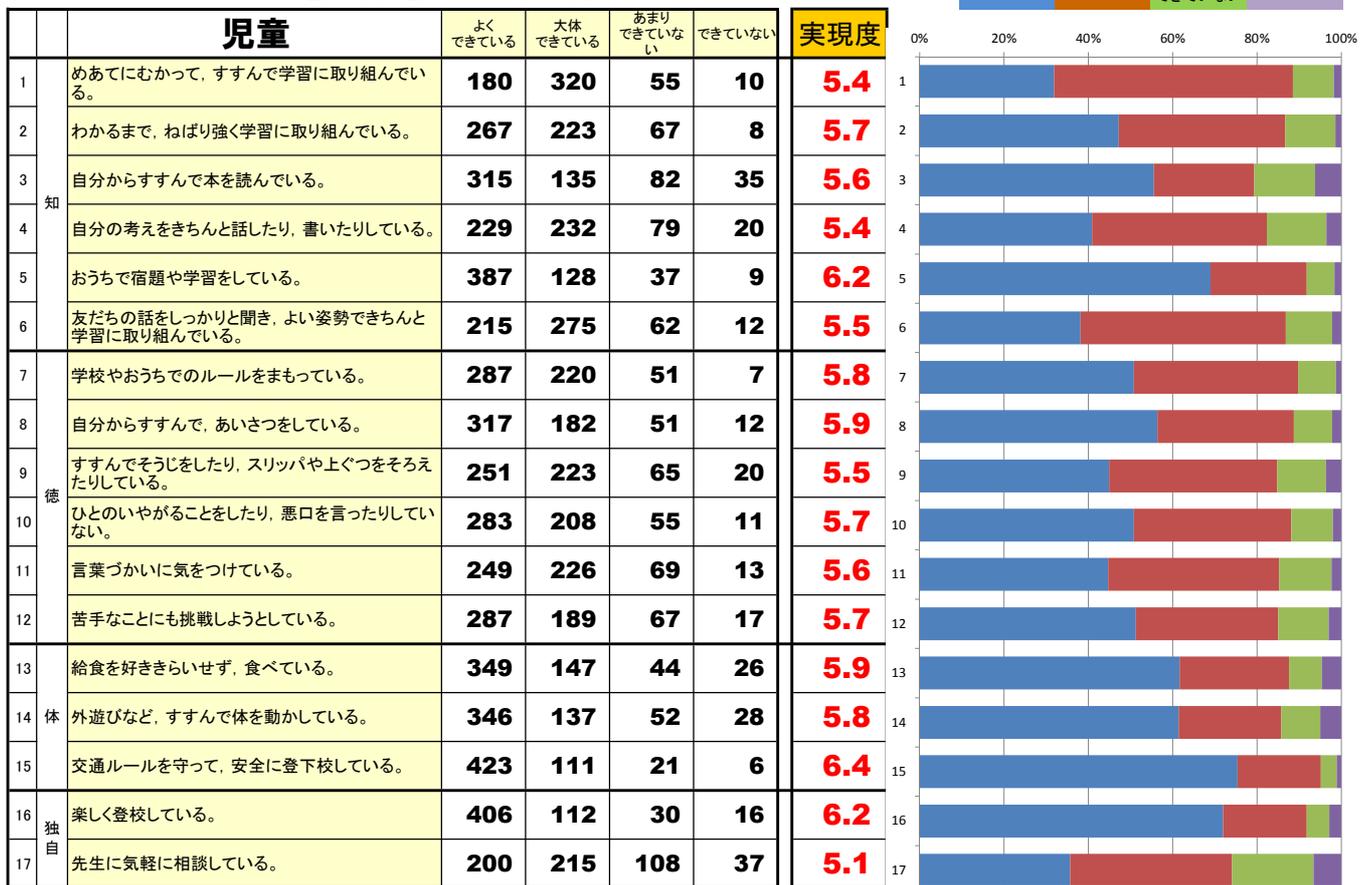
前期学校評価集計結果概要

10月初旬に行いました学校評価の集計結果および分析が整いました。報告が遅くなり申し訳ありません。
今年度は、今までの学校評価項目の見直しをさせていただきました。そして、保護者・児童・学校のそれぞれの視点から、確かな学力（知）・豊かな心（徳）・健やかな体（体）の3つの観点からの児童や学校、それぞれの取組の姿を確かめられるようにしました。したがって、昨年度までのデータと単純に比較することができなくなりましたが、3つの観点からの取組評価を明確なものとするとともに、今後同じ評価項目で確認しながら、経年変化を確かめ、児童の実態を明らかにし、本校の教育の取組に生かしていきたいと考えています。
今回、保護者の皆様からは526枚の解答をいただきました。ありがとうございました。お忙しい中、ご協力を賜りたいへんうれしく思います。記述欄においても多くのお言葉を頂戴しました。概ね高評価をいただいているように思われますが、まだまだ不十分な点も見受けられます。後ほど、記述いただいたご意見についてご報告いたします。

【資料1】は、児童の実現度（【別添資料1】参照）を表しています。実現度評価は、5を超えていると概ねできているととらえることができます。グラフや表にして表していますが、子どもたちはすべての項目において、概ね達成しているのとらえています。中でも、「5 おうちで宿題や学習をしている」や「15 交通ルールを守って、安全に登下校している」は実現度が6を超えるほどの達成度で、多くの子どもたちができているととらえています。概ね達成できてはいる中で、「1 めあてにむかって、すすんで学習に取り組んでいる」や「4 自分の考えをきちんと話したり、書いたりしている」の項目の実現度が低い状況となっています。確かな学力の項目の中に、2つも実現度が低いものができていますので、今後学習意欲や、話す・書くといった視点を授業の中でもより意識して取組を進める必要があるととらえます。また、よくできているととらえる児童とあまりできていないととらえる児童の2極化がみられ始めています。これは、取組やその成果に学級や学年の中で差が開いてきている状況だと考えられます。学力定着テストやジョイントプログラムの結果なども分析をしながら、今後の取組を見直していきたいと考えます。
もっとも児童の実現度が低いのは、「17 先生に気軽に相談している」という項目でした。実現度としては、5.1の結果ですので、概ね達成できてはいるのですが、他の項目に比べると残念な結果となっています。相談することがないので、できていないと答えている児童もいるようで、数値だけが、子どもの教師とのかかわりを表現するものではないようですが、子どもの居場所として学校や学年、学級がより機能していくように常に、見直ししながら取組を進めていきたいと思えます。

【資料2】は、保護者・児童・教職員の実現度を比較したものです。児童は「よくできている」と評価しているのに対して、保護者・教職員は厳しい評価を下しています。保護者の方の評価は、項目間の差が大きくなっています。教職員は、実現度4.5前後に集まっているという結果となりました。教職員に対しては、自分の取組の成果を自己評価するような設問にしていますので、厳しく自らを見つめているのか、又は、児童の能力は今後の取組次第でますます伸ばしていけることができるという思いを抱いているのかもしれませんが、結果内容にかかわっては、

【資料1】児童の実現度



【資料2】三者の実現度比較

知 徳 体 家庭教育等

6.4	【保護者】	安全指導	【児童】	【教職員】	6.4		
6.3					6.3		
6.2		主体的な学習	登校意欲		6.2		
6.1			計画的な行動		6.1		
6.0					6.0		
5.9		挨拶の習慣	バランスのよい食事		5.9		
5.8	登校意欲	ルールの遵守	運動意欲		5.8		
5.7		思いやりの心	学習への粘り強さ	挑戦する心	5.7		
5.6	思いやりの心	読書の習慣	言葉遣い		5.6		
5.5	安全指導	学習規律	整理整頓		5.5		
5.4		話す・書く	意欲的な学習		5.4		
5.3					5.3		
5.2	ルールの遵守	運動意欲			5.2		
5.1	開かれた学校づくり	学校との信頼関係			5.1		
5.0	主体的な学習	家庭地域との連携			5.0		
4.9	挨拶の習慣				4.9		
4.8	バランスのよい食事			ルールの遵守	4.8		
4.7	学校との信頼関係			挨拶の習慣	バランスのよい食事	4.7	
4.6	意欲的な学習				4.6		
4.5	話す・書く	学習規律		学習規律	安全指導	学校との信頼関係	4.5
4.4	言葉遣い			整理整頓	思いやりの心	登校意欲	4.4
4.3	学習の粘り強さ			学習への粘り強さ	話す・書く	挑戦する心	4.3
4.2				意欲的な学習	言葉遣い		4.2
4.1	活動への参加			運動意欲			4.1
4.0							4.0
3.9	読書の習慣	挑戦する心					3.9
3.8				主体的な学習			3.8
3.7							3.7
3.6				読書の習慣			3.6
3.5	整理整頓	【保護者】	【児童】	【教職員】	3.5		

【資料3】 保護者・教職員ニーズ度比較

			保護者 重要度	保護者 実現度	保護者 ニーズ度	教職員 重要度	教職員 実現度	教職員 ニーズ度	
1	知	意欲的な学習	めあてにむかって、すすんで学習に取り組んでいる。	6.5	4.6	22.1	6.4	4.2	24.3
2	知	学習への粘り強さ	わかるまで、ねばり強く学習に取り組んでいる。	6.6	4.3	24.4	6.2	4.3	22.9
3	知	読書の習慣	自分からすすんで本を読んでいる。	6	3.9	24.6	6.1	3.6	26.8
4	知	話す・書く	自分の考えをきちんと話したり、書いたりしている。	6.6	4.5	23.1	6.4	4.3	23.7
5	知	主体的な学習	おうちで宿題や学習をしている。	6.4	5	19.2	6.2	3.8	26
6	知	学習規律	友だちの話をしっかりと聞き、よい姿勢できちんと学習に取り組んでいる。	6.6	4.5	23.1	6.1	4.5	21.4
7	徳	ルールの遵守	学校やおうちでのルールをまもっている。	6.6	5.2	18.5	6.9	4.8	22.1
8	徳	挨拶の習慣	自分からすすんで、あいさつをしている。	6.8	4.9	21.1	6.9	4.7	22.8
9	徳	整理整頓	すすんでそうじをしたり、スリッパや上ぐつをそろえたりしている。	6.4	3.5	28.8	6.8	4.4	24.5
10	徳	思いやりの心	ひとのいやがることをしたり、悪口を言ったりしていない。	6.7	5.6	16.1	6.7	4.4	24.1
11	徳	言葉遣い	言葉づかいに気をつけている。	6.4	4.4	23	6.6	4.2	25.1
12	徳	挑戦する心	苦手なことにも挑戦しようとしている。	6.2	3.9	25.4	6.5	4.3	24.1
13	体	バランスのよい食事	給食を好き嫌いせず、食べている。	6	4.8	19.2	6.2	4.7	20.5
14	体	運動意欲	外遊びなど、すすんで体を動かしている。	6.3	5.2	17.6	5.9	4.1	23
15	体	安全指導	交通ルールを守って、安全に登下校している。	6.8	5.5	17	6.8	4.5	23.8
16	独自	登校意欲	楽しく登校している。	6.6	5.8	14.5	6.7	4.4	24.1
17	独自	学校との信頼関係	先生に気軽に相談している。	6.3	4.7	20.8	6.7	4.5	23.5
18	独自	開かれた学校	学校だより・学級だより・ホームページなどで、学校の方針や様子がよくわかる。	5.9	5.1	17.1			
19	独自	家庭地域との連携	学校は、家庭や地域と連携しながら教育活動を行っている。	6.1	5	18.3			
20	独自	活動への参加	PTA活動や地域行事に参加・協力できている。	5.3	4.1	20.7			

平成28年度 学校評価前期実施報告書

1 平成28年度 重点評価項目

主体的に思考・判断し、表現する子どもの育成

○学力の向上（授業改善・読書活動の充実・家庭学習の習慣化）

○体力の向上（基本的な生活習慣の確立・運動機会の充実）

○心の教育（公共精神の育成・規範意識の向上）

○開かれた学校の推進（家庭や地域の連携・伝統文化の充実）

2

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
確かな学力	授業改善	興味・関心 授業の意欲 ジョイントプログラムの結果	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習調査やジョイントプログラムの結果から、概ね満足できる結果が示されている。 学習に対する意欲にかかわっては、児童の評価は概ね満足できる状況ではあるが、保護者や教職員との開きは大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業力の向上を目指して今年度より研究の取組を国語科に絞って取り組んでいることを継続していく必要がある。子どもたちが主体的に学習に取り組めるように、学習課題の共有化や単元、1時間の見通しを明確の持てるような授業の構築が必要である。児童の学力向上をめざし、これからの社会に生きてはたらく力の育成につながるような研究の推進が必要である。 子どもたちは主体的に思考・判断し、表現できるように、学習場面だけではなく、あらゆる学校教育の場で教職員が意識をして、種々の活動を構築していく必要がある。子どもに必要な力を明確化、共有化して、連携を図りながら取り組みを進める。 読書の充実に向けて、引き続き岩倉図書館との連携をすすめたり、図書室や図書館への活用を意図的に授業の中にも取り入れ、本に接する機会を増やしていく。また、ブックトークなど工夫した本の紹介の時間を大切にすることで、興味関心を持続できるようにしていく。
	家庭学習の習慣化	主体的な学習 家庭学習の提出状況	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びにかかわっての児童の評価は大変実現度が高いが、教職員の実現度は非常に低い状況である。 家庭学習に関わっては、ほぼ取り組んでいる状況ではあるが、100%ではない。確実に家庭学習を定着させる必要がある。 	
	読書活動の充実	100冊読書の達成状況 図書室の本の貸し出し状況	<ul style="list-style-type: none"> 読書の習慣は学校の取組や運営協議会の方々の読み聞かせなどの取組により、一定の成果は見られる。また、低学年ほど貸出冊数は多いが、高学年になるほど若干の読書離れがみられる。 	
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	たてわり活動の実施状況 当番活動の観察・状況把握	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初よりあいさつやはきものそろえなど子どもたちへの身近な取組の徹底として共通理解をしながら取り組みを進めてきた成果が少しずつではあるが見え始めている。自分から気持ちよく挨拶をする児童が増えてきている。子どもの実現度も高いが、保護者や教職員との開きは大きい。そのため、引き続き学校全体で取り組んでいきたいところである。 畑の活動を通して、食に関することや畑の先生に関して感謝の思いが育っている。 子ども・保護者の思いやりの心の実現度が高い。それにくらべて教職員の実現度が低く開きが大きい。 生徒指導上の問題は、そんなに大きな事案はないが、細かな事案が続いておこっている状況である。子どもの同士のかかわり方など、活動場面などを増やしてつながりあう心を育てていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な場面での規範意識がどうなのかを振り返らせる時間を設定し、自分の行動を具体的に見直すことができるようにする。 児童活動をより主体的に取り組めように、取り組み方や活躍場面の設定など工夫をして進めていく。 たてわり活動の取組も充実させて、つながりをつくるとともに、思いやりの心の素地をつくっていく。 年間計画の充実や系統性を確保して人権学習や道徳学習の取組を常に見直し、充実させていく。 あいさつやはきものそろえを徹底できるように、常に声を掛け合いながら、指導者も意識して行い、児童の手本となりながら取り組みを進めていく。
	規範意識の向上	問題行動件数 あいさつの習慣化・言葉遣い		
健やかな身体	自他を大切にしている態度の育成	生徒指導アンケート 児童会活動の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果などから、女子の体力低下がみられる。休みの日にはまったく運動しない、外に出ることもすくない児童が多い。 持久走大会にむけて取り組みなど、与えられた取組などはまじめに熱心に取り組む児童は多いが、自ら率先して活動する傾向はすくない。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣アンケートなどの結果を活用し、学校全体の姿を教職員で共通理解を図り、生活の乱れを感じる児童には、大きな乱れになる前に保護者と連携を図りながら生活習慣の確立につなげていく。 児童会活動を通し、生活習慣の改善に向けて発信できるような取組を考案していく。 持久走にむけた中間マラソンを持久走大会終了後も継続し、体力の向上に取り組む。体力テストの結果を教職員が把握し、体育の時間などを活用して体力づくりに励むとともに、意図的に体を動かせる時間を設定する。 安全ノートの活用などを通して定期的に安全面への指導を続けるとともに、命の大切さについて考える時間も定期的に行うことで、自らの命で自らで守ろうとする心情を高め、危機管理意識を養っていく。
	体力の向上	持久走の取組状況の把握及び、体力テストの結果	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた家庭環境の児童が多く、生活の乱れは少ないが、高学年になるにつれて、寝る時刻が遅くなったり、朝食が十分に取れていない傾向がみられる。健康の大切さをつたえながら、継続した保健指導などで、健康維持増進にむけて取り組みを図ってきたい。 「交通ルールを守って安全に登校している」項目の児童も保護者も実現度が高い。しかし、子どもの姿をみていると、地域やPTAの見守り活動があっでできているところがある。見守り活動がないところでも、また下校時でも安全に行動できるようにしていく必要がある。 	
学校独自の取組	伝統文化教育の充実	総合的な学習の時間の取組	<ul style="list-style-type: none"> 明德農園やわきの山での活動を継続して行っていくことで、本校の伝統を大切に育んでいく。 開かれた学校づくりにむけて、HPを活用して学校の様子を知ってもらったり、学校だよりなどを地域に配布して、学校と地域の距離を少しでも縮められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> HPなどの情報発信を継続して続けていく。 教職員が地域の行事に一度は何らかの形で参加して、教職員の顔が地域でも保護者にもわかるようにしていく取組を推進していく。 学校運営協議会と学校とのかかわりをますます密にして、学校の運営により強くかかわっていただけるような組織や運営方法を理事の方々とともに考えていく。 PTAと地域がより連携が深められるように、学校運営協議会の理事にPTAの参画し、連携の充実に努めていく。 明德農園の取組に対して、毎年同じような取り組み方や畑の先生方との連携ができるように、学習課程を見直し一定して学習につなげられるようにする。
	地域との連携	運営協議会の方々の意見アンケート調査		
	開かれた学校づくり	HPや学級だよりに対する評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会に方々が学校の取組に対して賛同いただいているとともにたいへん協力的であるため、学校の大きな支援をいただいている。甘えることなく連携を深めるとともに、ますますの学校運営の充実を図っていかねばならない。 	

【別添資料1】

★実現度・重要度の算出方法

「実現度」「重要度」については、以下の方法で数値化をしております。

○それぞれの回答を以下のように数値化する

「よくできている・重要である」 …… 7

「大体できている・やや重要である」 …… 5

「あまりできていない・あまり重要でない」 …… 3

「できていない・重要でない」 …… 1

○それぞれの項目の総計を回答者数で割り、平均を出す。

●「無答」は、回答者数から除外し、別途分析する。

※「実現度」は、5を超えていると概ねできているととらえることができます。

★ニーズ度とは・・・

「重要度」「実現度」から「ニーズ度」（要求度）を以下の方法で算出することができます。

[ニーズ度の算出方法]

$$\text{ニーズ度} = \text{重要度} \times (8 - \text{実現度})$$

○とても重要（7点）だが、できていない（1点）の場合

$$7 \times (8 - 1) = 49 \quad \text{【ニーズ度の最大値】}$$

○重要でない（1点）で、できている（7点）の場合

$$1 \times (8 - 7) = 1 \quad \text{【ニーズ度の最小値】}$$

○やや重要である（5点）が、あまりできていない（3点）の場合

$$5 \times (8 - 3) = 25 \quad \text{【ニーズがあると判断する境界値】}$$

ニーズ度が25を超える項目、またそれに近い項目についてはニーズがあると判断し、重点課題として考察する必要があります。

【資料3】では、保護者と教職員のニーズ度を比較しています。25を超えるとニーズがあるとの判断でみると、保護者は、「9 すすんでそうじをしたり、スリッパや上ぐつをそろえたりしている」と「12 苦手なことにも挑戦しようとする」にニーズがあります。一方、教職員は「3 自らすすんで本を読んでいる」、「5 おうちで宿題や学習をしている」、「11 言葉づかいに気をつけている」にニーズがあることとなります。すこし保護者と教職員の認識に違いがあります。しかし、「3」についての保護者のニーズ度は24.6、「11」についての保護者のニーズ度は23と比較的高いことから、同じような視点を持っているとは言えるのではないかと考えます。ますます、家庭と学校との連携を深め、めざす姿を共有化できるようにしていかなければならないと考えています。

【別添資料2】

学校評価項目一覧

京都市立明德小学校

				子ども	保護者	教職員
1	知	意欲的な学習	主体	めあてにむかって進んで学習に取り組んでいる	子どもはめあてにむかって意欲的に学習に取り組んでいる	子どもを意欲的に学習に取り組めるよう授業の工夫をしている
2	知	学習への粘り	思考・表現	わかるまで粘り強く学習に取り組んでいる	子どもはわかるまで粘り強く学習に取り組んでいる	子どもが粘り強く学習に取り組めるように支援している
3	知	読書の習慣	主体・表現	自分から進んで本を読んでいる	子どもは家庭でも読書している	子どもが進んで読書できるよう働きかけをしている
4	知	話す書く	思考・表現	自分の考えをきちんと話したり書いたりしている	子どもは自分の考えをきちんと話したり書いたりできている	子どもが自分の考えを話したり書いたりできるような取組をしている
5	知	主体的な学習	主体	家で宿題や家庭学習をいつもしている	家で宿題や家庭学習を進んでいる	子どもが継続的に家庭学習できるような支援をしている
6	知	学習規律	主体・表現	友だちの話をしっかりと聞き、よい姿勢や態度で学習に取り組んでいる	子どもが人の話をしっかりと聞きたい、良い態度で学習しようとしている	子ども同士の話し合い活動ができるような学習規律を整えている
7	徳	ルールの遵守	思考・表現	学校や家庭のルールを守っている	子どもは学校や家庭のルールを守っている	決まりやルールを守ろうとする態度を養っている
8	徳	挨拶の習慣	主体	自分から進んで挨拶をしている	子どもは挨拶をする習慣を身につけている	気持ちよく挨拶をする習慣を養っている
9	徳	整理整頓	主体・表現	進んで掃除をしたり、スリッパやはきものをそろえている	子どもは、進んで整理整頓ができたり、はきものをそろえたりできている	掃除やはきものをそろえるなど人のことを考えて行動する態度が養っている
10	徳	思いやりの心	思考・判断	人の嫌がることや悪口をいったりしていない	子どもは、仲間をおもいやり、仲よくすることができている	人権を基盤とした人間関係を築く心を育てている
11	徳	言葉づかい	判断・表現	言葉づかいに気を付けている	子どもは、その場に応じた言葉づかいができている	場や相手に応じた言葉づかいができるような指導をしている
12	徳	挑戦する心	主体	苦手なことでも挑戦しようとしている	子どもが苦手なことに挑戦しようとしている	何事にも挑戦しようとするする態度を育てている
13	体	バランスのよい食事	思考・表現	給食を好き嫌いせず、食べている	子どもは好き嫌いをしないで食事ができている	好き嫌いをせず、しっかりと給食を食べるような指導を心がけている
14	体	運動意欲	主体・表現	外遊びなどすすんで体を動かしている	子どもは、積極的に外遊びやスポーツをして、体をうごかしている	積極的に外遊びをしたり、体を動かしたりすることを進めている
15	体	安全指導	判断・表現	交通ルールを守って安全に登下校している	子どもは、交通ルールを守って安全に登下校できている	安全に行動できるような指導をしている
16	独自	登校への意欲			子どもは登校することを楽しみにしている	
17	独自	学校との連携			学校、学級だよりやホームページなどで学校の方針や様子がよくわかる	
18	独自	学校との信頼関係			学校に気軽に相談ができる	
19	独自	地域連携			学校は地域と連携しながら教育活動を行っている	
20	独自	活動への参加			PTA活動や地域行事に参加・協力できている	